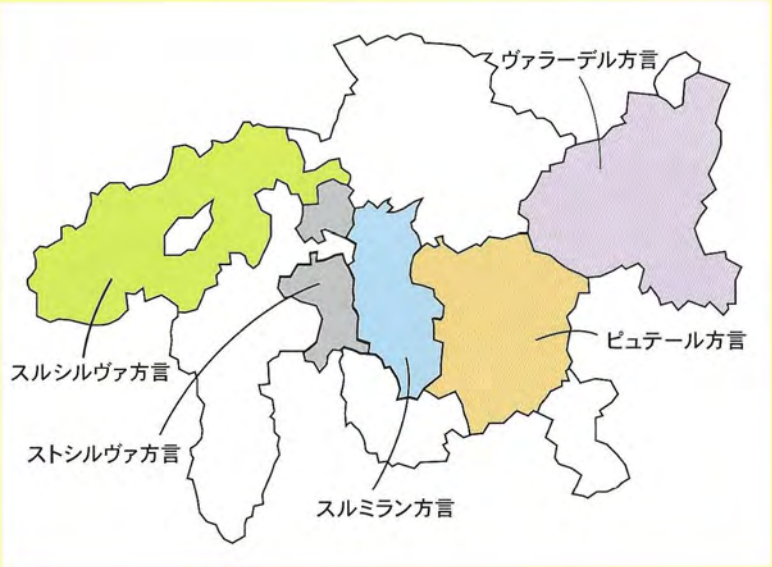
スイス「ロマンシュ語」入門

河崎 靖・坂口 友弥・熊坂 亮・Jonas Rüegg 共著



東京大学出版会発行

スイス「ロマンシュ語」入門

A Grammar of Sursilvan

河崎 靖・坂口 友弥・熊坂 亮・Jonas Rüegg

共著

東京大学書林発行

疑問文

平叙文の主語・動詞を倒置させることで作られる.

Vus giais a chasa.「君たちは家に帰ります」

- Giais Vus a chasa?「君たちは家に帰りますか」

動詞

活用のタイプによって次の4つのグループに分けられる.

-ar

	単数	複数
1人称	gid	gidain
2人称	gidas	gidais
3人称	gida	gidan

-air

	単数	複数
1人称	tem	temain
2人称	temas	temais
3人称	tema	teman

-er

	単数	複数
1人称	vend	vendain
2人称	vendas	vendais
3人称	venda	vendan

-ir

	単数	複数
1人称	part	partin
2人称	partas	partis
3人称	parta	partan

第1章　ロマンシュ語とは

第1節　言語文化誌

本書でロマンシュ語と呼ぶ言語は，スイスのグラウビュンデン州で数万人によって話されているロマンス語のことである．1つの言語というよりはいくつかの方言のことであり，標準語の役割は極めて限定的で，自らの国家ももっていないため，現代に至るまで渓谷ごとの方言から成り立っている．それらのことばは一般的に「レト・ロマンス語」と呼ばれているが，レト・ロマンス語はスイスだけではなく，北イタリアの諸言語も含める表現である．しかし，イタリアとスイスのレト・ロマンス諸言語の共通性の問題は未だ議論の的となっている[1].

レト・ロマンス語の「レト」は「レツィア語」と言われる言語の名に由来する[2]のだが，1990年代にレツィア民族の同質性を疑う見解[3]が示され，このような基礎言語の存在も問い直すべきであると考えられている．政治的にも，イタリアとスイスにおけるレト・ロマンス諸言語は本来，別々であったため，全く違うように発達してきたという事実もある．

最も話者数が多いレト・ロマンス語は，北伊のFriuli Venezia Giulia州にて60万人以上が話すフリウリ語（Furlan）である[4]．さらに，南チロル州におけるドロミテ語があるのだが[5]，いずれもイタリア語とは明らかに異なり，話者のアイデンティティーにとっては欠かせないという意味合いはあるものの，行政ではほぼ全く，また学校教育でも微かにしか使われていない[6]．イタリアのレト・ロマンス諸言語は1999年の482号法律により，守るべき少数言語として国家によって認識されるようになったのだが[7]，それでも未だに弱い立場にある．ドロミテ語は政治的に分裂しており，また自分

[1] Blättler (2007:7-9)
[2] Deplazes (1987:10)
[3] Wanner (2012:79)
[4] Blättler (2007:130-40)
[5] Gross (2004:14)
[6] Blättler (2007:91)
[7] Maraschino und Robustelli (2011:76)

たちの政治的代表者がいないため，特に立場が危うい．それでも，ポスト・コロニアルのヨーロッパでは少数民族や言語の理解が深まっており，北伊のレト・ロマンス語圏の人たちも積極的に自らの文化を育てようとしている．[8]

本書でロマンシュ語と呼ぶ言語は，東スイスのグラウビュンデン州における５つの方言，それらに加えて，人工的な標準言語 Rumantsch Grischun（ロマンチュ・グリシュン）のことである．これらのレト・ロマンス諸言語は「グラウビュンデンのロマンシュ語 Rumantsch dal Grischun」とも言われている．話者数は母語話者３万 5000 人という統計がある[9]．確かに，スイス人口の 1% も満たないが，ロマンシュ語がスイス連邦国のアイデンティティーに果たしている役割は決して小さくない．

次の１節で示す地図からもわかる通り，各方言域が高い山によって隔てられている．この中で最も話者数が多く，メディアに占める割合が多い方言は，西のスルシルヴァ谷を中心としているスルシルヴァ方言である．ロマンシュ語のもう１つの根強い牙城は，東の方にあるエンガディン谷におけるビュテール語圏である．これらの２つの中心を結びつける中央のロマンシュ語圏には，ヴァラーデル語・スルミラン語・ストシルヴァ語があるが，これらの方言は併せてほぼ 5000 人の話者しかいない少数言語である[10]．なお，ロマンシュ語は UNESCO によって「明らかに危機にある言語 / definitely endangered language」として登録されている．[11]

[8] Blättler (2007)
[9] Furer (2004:94)
[10] Kraas (1992:115)
[11] http://www.unesco.org/new/en/culture/themes/endangered-languages/ [2013 年 2 月現在]

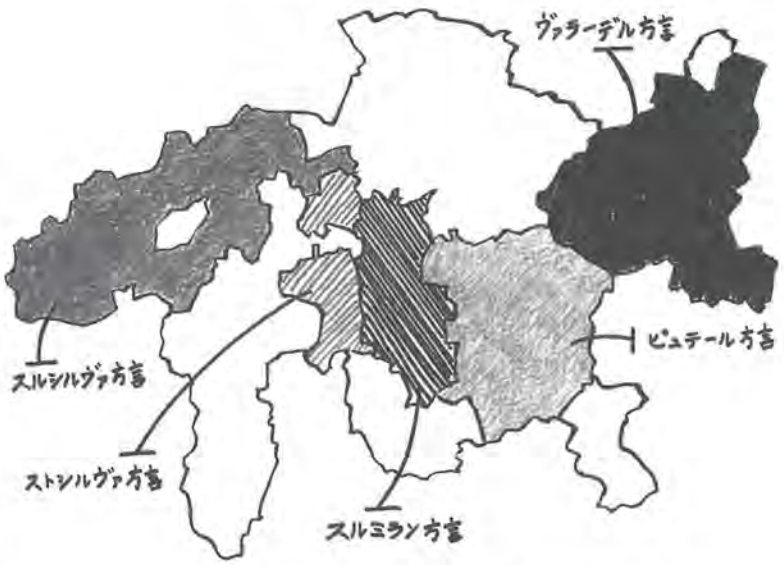


図１　グラウビュンデン洲とロマンシュ語各方言の地域

１．古代の政治的現実とロマンシュ語の誕生

現代「グラウビュンデン州」と言われる地域に，紀元前，つまりローマ時代以前，どのような民族が生活していたのかは，今でも謎である．ロマンシュ語に残っている，ラテン語にも由来せずゲルマン語にも由来しない言葉が多くあるのだが，ローマ時代以前の言語文化を復元する作業は困難を伴う．

> 「レツィア人はエトルリア人の子孫であり，ガリア人によって追い立てられた際，その大将レトゥスの下でアルプス山脈の奥へ逃げ込んだと思われている．[...] レツィア民族の中ではヴェンノネースィ族とサルネーティ族がライン川の泉の辺りにおける [...]．」

このように，古代ローマの最も優秀な自然科学者の一人として有名なガイウス・プリーニウス・セクンデュスの文献に登場する山の民族レツィア人（Raeti）について詳しいことはわかっていない．このため，レツィア人についてさまざまな説がある．これまで長く，単一の民族で，セム人またはケル

ト人であったであろうという仮説があった．古代にアルプス山脈で生活していたと思われるこの民族は，東アルプスの諸民族の先祖と想定されていた．[12] ただ，最新の研究によると，「レツィア人」は，単一の民族ではなく，文化的にも政治的にも関連性が極めて低い諸民族の総称であったのではないかと言われている．[13] したがって，北イタリアとスイスのレト・ロマンス諸言語との関連性を巡る議論も未だ片が付いていない．いずれにせよ，レト・ロマンス諸言語の背景に非ラテン語的な要素があることは確かである．考古学的にも，北の地域やスルシルヴァ谷においてケルト文化の，南に向かう谷においてゴラセッカ文化（Golasecca）の，そしてエンガディン地方においてレツィア文化の，いくつかの遺跡が見つかっている．[14]

レツィア人の言語については今日まであまりに情報が乏しく，どの語族に属するのかさえ判断がつかない．印欧語族ではないのではないかと考えられており，セム語族に属するとする説さえ唱えられている．[15] レツィア人の真相はこのようにいつまでも判明がつかない．このため，新しく編集されたスルシルヴァ語の辞典類でさえも言語の基層に当たる記述で「前ローマ的」と記すしかなかった．[16]

紀元前 15 年，今日のグラウビュンデン地域が武将 Drusus と Tiberius によってローマ帝国に併合され，レツィア州が誕生した．これに続く数百年の間，当地ではラテン語が公用語であり，民衆レベルでローマ化が進んだ．ローマ帝国の崩壊以降，クール（独 Chur / ロ Cuera）市を政治的な中心としているレツィア州（独：Churrätien）が政治的に独立していき，このような状況下でロマンシュ語が話し言葉として機能し始めた．[17] ただし，文語としては依然としてラテン語しかなかったため，ロマンシュ語の書物は当時のものが何一つ残っていない．

[12] このテーマについては Wanner (2012) を参照のこと．
[13] Wanner (2012:79)
[14] Deplazes (1987:3-10)
[15] Deplazes (1987:13)
[16] Decurtins (2001) および Liver (2009:135)
[17] Liver (2009:135)

2．中世のロマンシュ語

ロマンシュ語圏におけるキリスト教の普及はローマ帝国の崩壊以降に進み始めた．確かに，遅くても 451 年にはクール市に司教がいたことがわかっているが，異教も 8 世紀まで残存していたことを伺わせる痕跡が見つかっている．[18] アルプスの山中に異教が盛んなままであったことは，ロマンシュ語の民謡にその跡を残している．最もよく知られている例としては，「聖なるマルグリアータの歌」Canzun da Sontga Margriata がある．魔法を使って，ある農場を枯死させた聖なるマルグリアータは実は異教の神で，キリスト教普及の影響によりキリスト教の聖人らしい名前を与えられたと考えられる．[19]

「レツィア州」が政治的に独立していた時期はあまり長く続かなかった．カール大帝の治世下（9 世紀）でドイツ語系の役人がどんどん権力を握り始めた．この時，初めてドイツ語が直接的な影響をロマンシュ語圏全域に及ぼし始めたと考えられる．この頃，人々が日常的に話す俗ラテン語とドイツ語の間に，それぞれ役割の差が生じた．[20] 中世全期に渡って，文語としては主にラテン語が使用されたが，併せてドイツ語で記された書物も中世に登場することがある．ただ，ロマンシュ語で記された公文書は中世期にほんの一枚も残っていない．[21] これに関しては興味深い発見があった．グラウビュンデン州のほぼ中央にあるマルモレーラ城で偶然に発見された，砂に埋もれていた羊皮紙のことである．この羊皮紙は，14 世紀に遡ることがわかっている．手紙は今日に至るまでロマンシュ語圏に属する地域における 2 人の文通の記録であるが，テキストはドイツ語で書いてある．送り手と受け手の名前からも，明らかにロマンシュ語話者同士のコミュニケーションであるにも拘わらず，会話を書き言葉で記述する場合は，もはや 14 世紀にドイツ語を使っていたのである．つまり，ロマンシュ語は中世のレツィア州においても言わば俗語にすぎず，文語としての地位を与えられることはなかった．[22]

[18] Deplazes (1987:25)
[19] Deplazes (1987:45)
[20] Furer (2005:9-19)
[21] Clavadetscher (1994:585-9)
[22] Clavadetscher (1994:585-9)

ロマンシュ語の立場が更に弱まっていったのは，7-15 世紀の間に北からドイツ語系のアレマン人が移住し始めたことに起因する．この入植は，すでにローマ帝国が崩壊する以前にゲルマン人の移民として始まってはいたが，後にラテン語を本格的に排斥し，現代のスイスの北東部に当たる地方をゲルマン化したのである．この移民が 12 世紀頃グラウビュンデン州に及んだと考えられる．

中世初期，ロマンシュ語圏がどのくらい広がっていたのかは推し量ることは難しいが，言語学の研究成果によれば，東スイスの大部分・リヒテンシュタイン・アルプス南部の谷・西オーストリアのヴォラルベアグ州にまで及んでいたようである．[23] これに伴い，ロマンシュ語が次第に消滅し始める．ロマンシュ文化の発展をさらに困難とした災いは 1464 年に起こった．この年，レツィア州の文化的な中心であったクール市が焼失したのである．再建に際して，多くの職人が北からクールへ移住することにより，この首都のゲルマン化が進んだ．この事件以来，ロマンシュ語には文化の中心地点がなくなってしまった．この事件はロマンシュ語の諸方言がこれほど多彩になった要因の 1 つと見なされている．[24]

さらに中世の間，ロマンシュ語圏の縮小を引き起こした移民が 14 世紀に起こった．西スイスのバレー地方からアルプス山脈を越えてくるドイツ語系の移民が増え始めたのである．この時までは開拓されていなかった高原などが現代のグラウビュンデン地方には豊富にあった．[25] 税収を増やし，[26] 領域の境を守るために，地主らがいわゆるヴァルザーの人々（Walser, ヴァリスからの移住者，高地アレマン人の 1 部族）[27] に土地を貸した．このようにしてロマンシュ語圏の縮小が 1600 年頃まで続いた．これ以降は大規模な移民が起こらず，言語圏の境界線がほぼ変わらずに保たれてきた．[28] ヴァルザー人が創立したある村は今日に至るまでロマンシュ語圏に囲まれる言語島（Sprachinsel）の存在を守ってきた．

[23] Mayr (2012:22)
[24] Liver (2009:136)
[25] Bundi (1982:257-9)
[26] Muraro (1995:150-2)
[27] Rizzi (1990:47-8)
[28] Liver (2009:135-7)

以上述べた通り，中世はロマンシュ語が公文書に使われたことが一切なかったのである．書き言葉は主にラテン語で，それ以外ではドイツ語が用いられた．それでもロマンシュ語が文章に記されたノートの断片が微かに見つかることはあった．現在，知られている最も古いロマンシュ語の断片は 10 世紀に遡る Würzburger Federprobe という文書である．このテキストはラテン語にかなり近い文章である．これに次いでロマンシュ語が書き言葉として使われた史料は 11 世紀に記された Einsiedler Interlinearversion である．それはラテン語で記された説教のテキストの中，行と行の間にロマンシュ語らしい翻訳が記された書物である．さらに中世のロマンシュ語の初期の形を伝える書物がある．いわゆる「ミュシュタイルの講談」（Münstertaler Predigt）は土地の利用権を書き留める証書である．現在知られている，1500 年以前に遡るロマンシュ語の史料はこれらのたった三つしかない．[29]

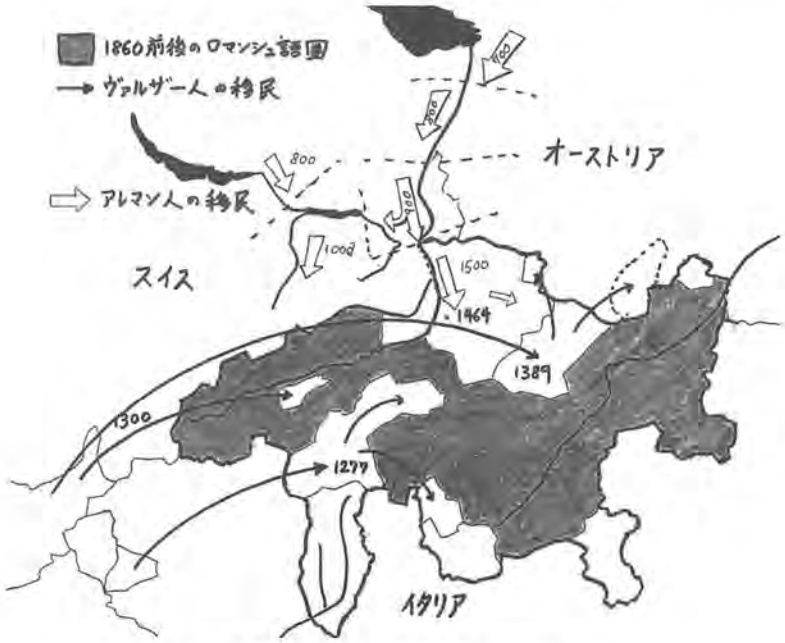


図 2　ロマンシュ語圏と中世の移民

[29] Deplazes (1987:49-52)

3．ロマンシュ語の文体化とルネサンス

現代まで伝わっているロマンシュ語の最も古い文学作品は16世紀前半に遡るが，初めてロマンシュ語の本が印刷されたのは宗教改革後の1560年のことである．新しい思想を庶民に普及させるために，その思想を庶民の言葉に訳す必要があった．聖書の込み入った言葉をロマンシュ語に訳すことがすでに1560年に可能な状態であったことは以前のロマンシュ文学の存在を伺わせる．ただし，Jachiam Bifrunの聖書のロマンシュ語訳はヴァラーデル方言で記されたものであり，他の方言圏では通じなかったため，早くも1562年にピュテール方言，そして1611年にスルシルヴァ方言の聖書が印刷されるようになった．スルシルヴァ方言圏は宗教改革以来，プロテスタント派とカトリック派に分裂していたので，宗教的な論争によって異なる綴りならびに文法が誕生した．スルシルヴァ方言が統一されるのは1927年のことである．[30]

ロマンシュ語の話者は1800年頃までグラウビュンデン州の人口の大半を占めていたものの，19世紀に著しく減衰した．州がスイス連邦に加盟することに伴い，ドイツ語のより強い影響が及び，次第にロマンシュ語話者数の比率は減少した．スイス連邦では1860年以来，定期的に行われてきた国勢調査が豊富なデータを示していて，この150年のロマンシュ語の減衰が見てとれる．ロマンシュ語は，19世紀の近代国家成立の過程，グラウビュンデン州のスイス連邦加盟，そして国民学校の導入によって，組織的にダメージを受けた．[31] 国家が体系的にドイツ語の普及を狙う政策を行い，ロマンシュ語に時代遅れという烙印を押したのである．1900年になると，ロマンシュ語の割合はグラウビュンデン州で35%にまで減り[32]，危機言語と認識されるようになった．しかし，その危機感こそが，ロマンシュ語の保護を目的としている国民運動や全ロマンシュ語圏の共生意識を引き起こし，ロマンシュ語のルネサンス（Renaschientscha Retorumantscha，1900年前後）の草分けの役割を果たすことになったのである．このようなスローガンをロマンシュ文学運動が掲げていた．その中の最も代表的な詩をこの場で紹介する．

[30] Darms (1989:827-853)

[31] Valär (2012:102)

[32] Furer (2005:14)

Romontsch, romontsch ei nies lungatg
E viva nossa viarva
Schi ditg che sin nos cuolms il matg
Verdegia nova jarva
(Flurin Camathias 1907)[33]

「ロマンシュ語，ロマンシュ語，我らの言葉
長く響き続け
故郷の峰に五月の草が
萌えなくなる時まで」

上の詩に見られる，故郷を想う気持ち，そしてその理想化が，ロマンシュ語のルネサンスを掲げた文学運動の特徴の一つである．保守的な価値観の保護も狙ったことは否定できないが，このような文学作品はなによりも，少数民族の危機感をテーマとしていながら，近代化している世の中にあっても少数言語も生き残れる希望を表現している．

4．国家とロマンシュ語

4ヶ国語を憲法で守っているというのはスイスの特徴の1つである．4言語そして4つの文化が平等であることを象徴するスイスの国旗がこれを表わしている．文化的な多様性がスイスのアイデンティティーに重要であることは明らかである．

スイスにおける諸言語の共存，および，それぞれの社会的地位について論じる前に，スイス連邦国の構成を簡単に紹介したい．スイスは中央集権国家というよりは，26のかなり独立性が高い国家（州）が同盟している国家連合である．中心的な役割を担う首都ベルン，つまりスイス連邦（独：der Bund）が担当する範囲は比較的小さい．連邦は，外交・軍事・鉄道・郵便などを担当し，連邦税金を収集するのだが，各州においては法律・教育制度などが大幅に異なっている．そして行政が言語の多様性に応対する方法も，州によって大きく異なる．したがって，ドイツ語しか公用語としていないチューリヒ州においては，他言語の存在の影が極めて薄く，まるで外国語のようである．一方で，フランス語圏のジュネーブ州にはドイツ語が機能している姿はほとんど見られない．スイスの26州の中では単一の行政言語を使用している州が大半であり，2言語を行政に使う州は3つ，3言語も認めている州はグラウビュンデン州だけである．

[33] Camathias (1907:127-8)

行政語[34]	州の数
独語のみ	17
仏語のみ	4
仏語のみ，独語の自治体あり	1（シュラ州）
伊語のみ，独語の自治体があり	1（ティチーノ州）
独・仏二重国語	3
独・ロ・伊三重国語	1（グラウビュンデン州）

この表からわかる通り，スイスの州の大半は1言語使用の地域であると言える．では，スイスの諸公用語の中では最も話者数が少ない言語，ロマンシュ語を母語としている人々はどのような立場にあるのだろうか．個人レベルだけでなく，自治体・州行政や連邦国家レベルでもこの問題に対応していかなくてはならない．

ロマンシュ語の本場と言えるスイス南東にあるグラウビュンデン州はアルプス山脈の渓谷地がその大半を占める．アルプス北山麓のみならず，イタリア語圏に属する谷も州の南部に当たる．山脈によって形成されるさまざまな景色や気候と同様，今日に至るまで各地域の文化的な特徴が伝えられてきた．文化の差が最も顕著なのは，このそれほど広くない地方にさまざまな言語が話されている点である．行政はドイツ語・ロマンシュ語・イタリア語という3つの公用語を使うが，さらに言えば，ドイツ語圏内で日常生活に話されているスイスドイツ語，イタリア語圏内で話されるロンバルド方言，そしてロマンシュ語圏における5つの方言が互いに大きく異なっており，おのおのが独特の書記文化をもっていることに配慮すれば，グラウビュンデン州はまさに多文化共生社会なのである．

ロマンシュ語はスイスにおいて9番目に話者数が多い言語である．土着の言語であることから，ロマンシュ語が自らの言語圏つまり人口の大半を占める地域がある．この点が，話者数は多いが，移民によって普及した言語との違いで，ロマンシュ語が国によって認められている理由である．[35] ロマン

[34] Furer（1999:7）に基づいて作成．

[35] http://www.bfs.admin.ch/bfs/portal/de/index/themen/01/05/blank/key/sprachen.html 2000年にはスペイン語・セルビア語・ポルトガル語・トルコ語と英語がスイス全国でロマンシュ語を話者数で上回ったとは言え，これらの言語が人口の大半を占める自治体がない．

シュ語に対する国家の対応の努力は，ヨーロッパにおける他の少数言語に比べてかなり大きいと言えよう．それでも，ロマンシュ語は他の国語と平等に扱われることが望めない．この事実は，統計によって確認される：全州民との比率ばかりではなく，絶対数としても下降の傾向にある様子が記録されている．1860年ころ4万1625人であったロマンシュ語の話者は，全州の人口増加の結果，1980年までは緩やかに増加（5万128人）したが，それ以降は急速に減り始めた．2000年にはロマンシュ語を母語として挙げる人はグラウビュンデン州の17.7%（35,085人）にとどまる．[36] これまで国を挙げての努力がなされてきたとは言え，ロマンシュ語の危機を避けることは未だ出来ていない．

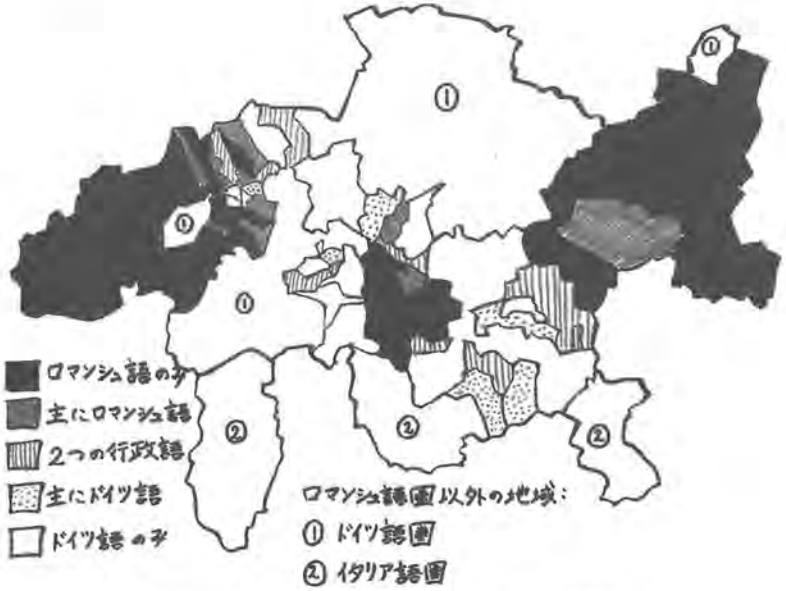


図3　グラウビュンデン各自治体に於ける行政語

[36] Furer（2005:94）：1980年までの国勢調査には「母語」という問しかなかったのだが，ロマンシュ語の話者の多言語性を考慮して1990年以来は「最も堪能な言語」の他に「家庭内で話す言語」・「生活のある場面で使う言語」などの問に変更された．そのため「最も堪能な言語」としての人数が急に減少した．話者の総数が新しいアンケートの影響で増えたとは言え，2000年にも減りつつあった．

5．スイスの国語としてのロマンシュ語

第一次世界大戦後に民族の自由運動が高揚し，ベルサイユ条約でヨーロッパの地図が書き換えられる中，1919年にロマンシュ同盟「Lia Rumantscha」が結成された．ロマンシュ同盟の目標は，自らのロマンシュ国家の建設とまでは言わないまでも，ロマンシュ語の国語としての認識，そしてロマンシュ語の長期的な保護することにあった．前者の目標は1938年の国民投票で達成されたが，後者の目標のために今日に至ってもなお努力が続けられている．

ロマンシュ語が憲法上，4つ目の国語としてドイツ語などと同じ地位を与えられた1938年（第二次世界大戦の前夜），スイスは，北のヒトラー政権と南のムッソリーニ・ファシスト政権に囲まれていた．いずれもスイスに対して脅威的な存在であり，スイスへの侵略を図っていることは当時，推定できた．イタリアの民族統一主義者はロマンシュ語をイタリアの方言とみなし，ロマンシュ語圏をイタリア語圏と共にイタリアに併合すべきだと宣言していた.[37] このような脅威に対して，スイス政府は「精神的国土防衛」（独：Geistige Landesverteidigung）を掲げて，国民の愛国心を高めるプロパガンダを行った．このようなプロパガンダは，19世紀にできたスイスの創立神話などを取り上げ，「自由に共存している農夫の国」としてのスイス観を強調した．まさに19世紀の「伝統の創作」が続けられたのである．スイス・ドイツ方言の地位が高まり，標準ドイツ語が日常生活からほとんど消えているのも，ある程度この時代の結果である．「精神的国土防衛」のスイス観には，ロマンシュ人の独立性や自由を支援する運動は適っていた．国民投票で憲法を変更し，ロマンシュ語の国語認識を目指す運動はカトリック保守党の代表のフィリップ・エッター大臣の支援を受けた．

「ロマンシュの友等に，我が国民を物質的な悩みや財政的競争から目覚め起こし，精神的な価値に意識を向ける機会をこの要求によって与えていただいたことに対して心から感謝を申し上げる」[38]

外国からの脅威や「精神的国土防衛」の影響で，政治の左翼・右翼が互いに

[37] Handbuch der Bünder Geschichte, Bd. 3, S.193.

[38] Cit. nach Valär (2012:110)

近づき，福祉厚生や軍備の拡大などを巡る議論で協力し合うようになった．やがて国民投票が行われた1938年2月20日，ロマンシュ語を憲法上認める運動が国民の92%という圧倒的な賛成を得た.[39] ロマンシュ語話者のアイデンティティーの強化にこのような政治の動向が大きく刺激を与えたことは言うまでもない．それでもなお「国語」（独：Landessprache）と「行政語」（独：Verwaltungssprache）の区別に配慮しなければならない．

連邦レベルでは「国語」ではあるが「行政語」ではないロマンシュ語は，実際には，連邦の行政においては存在しないに等しかった．ロマンシュ語は「部分的な行政語」という地位，つまりロマンシュ語の話者とのやりとりの場合に使われるという地位を取得するのは，ようやく1996年のことである．現在でもスイス連邦がロマンシュ語でも公開しているのは極めて限られた範囲の情報だけというレベルに留まっている.[40] 表向きの平等性は実現されているとは今なおとても言えない．このような事実を俎上に載せて，国会議員マルティン・ブンディ氏が1990年に，スイスは実際に4ヶ国語ではなく，2.5ヶ国語しかもっていない，という懸念を国会で表明した.[41] 0.5ヶ国語に当たるのは，ロマンシュ語を話者数で大幅に上回るが，全国民の6.5%[42]に留まるもう1つの「少数言語」，イタリア語のことである．イタリア語は，ティチーノ州では唯一の行政語とは言え，国会において使われることはない．イタリア語圏内では「外国語」の必要性が低いとはいえ，少数の言語であることは否定できない．

6．学校教育におけるロマンシュ語

エンガディン地方は19世紀以来，観光業が発展し，ロマンシュ語圏に属する多くの村にも人口増加の傾向があった．ただ，ロマンシュ語を「最も堪能な言語」とみなす人の割合は13%にまで減少した．と言えども，元々の住民が，ドイツ語を筆頭に複数の外国語を身につけながら自分の母語（ロマンシュ語）を守り，学校等の公式な場面でも依然として使い続けることによ

[39] Valär (2012:105-111)

[40] Dazzi (2012:120)

[41] http://www.parlament.ch/afs/data/d/gesch/1990/d_gesch_19901009_002.htm

[42] Furer (2005:30)

図4 「駐車禁止」というロマンシュ語の注意看板

り，ロマンシュ語が長年に渡って保たれてきたのである.[43]

ロマンシュ語圏の一部の村では行政語がロマンシュ語のみであり，小・中学校の授業などがロマンシュ語で行われる．しかし現実にロマンシュ語圏の全域は二重国語の地方だと言える．つまり，ドイツ語能力は日常生活のために不可欠である．その一方，ドイツ語圏から移住した人にとっては，ロマンシュ語の学習は特に何の必要性もなく，学ぶも学ばないも自由である.

スイスの小学校は地方自治体によって行政されており，何語で授業を行うかを，自治体が決める．従って，ロマンシュ語圏に属する116の自治体の中で，78が小・中学校の授業をロマンシュ語で，21が二重国語で行っている．村によって4つのタイプがある．そのうちにはロマンシュ語を主要言

[43] Furer (2005:26)

語として使う小学校，そしてドイツ語が主要言語でありながらロマンシュ語で行われる授業もある小学校が多い．更にドイツ語とロマンシュ語を同じ授業数で使う学校と，ロマンシュ語を全く無視する学校もある.[44] 2000年の国勢調査では，学校でロマンシュ語授業の時間数がロマンシュ語の次世代への伝承率に極めて強く関連していることがわかった.[45] しかも外圏人のロマンシュ語能力も学校のタイプによって著しく異なる.[46] また，1990年と2000年の間では，学校でロマンシュ語が使われている時間が増加を示した．このようなことから公用語としての存在感や，ロマンシュ語を守りたいという人々の意識が高まったことが伺える．そして学校で用いられるということがロマンシュ語の存亡に対して大きく影響を与えたということが顕著に示された.

7．統一で困難を極めるロマンシュ語

ロマンシュ語の統一は本来的な課題である．ここまでで述べた通り，ロマンシュ語の文章語が生まれて以来いくつもの方言に分裂しており，それぞれ各方言が時代を経て独特の書記伝統を築いていった．それぞれの方言はスペル（綴り）もさることながら，文法や語彙が大きく異なり，互いを理解しかねるほどとなった．つまり，ロマンシュ語圏が合流するには，地理的支障だけではなく，文化的差異という問題もある．ロマンシュ文化が生き残れるようにするには統一が必要だという考え方は新しいものではない．宗教改革時にロマンシュ語の文章語が成立して以来，ロマンシュ語圏における言語の標準化は絶えざる議論のテーマであった．ロマンシュ語の標準化の試みは実際，過去にも何回か行われたことがあり，いずれも民衆レベルでは受け入れられず失敗に終わっている.[47]

ロマンシュ語を絶滅から救う最終的な言語統一の試みはRumantsch

[44] Gross (2004:49)
[45] Furer (2005:50)
[46] ロマンシュ語を主要言語として使う小学校のある村には，外国人の子供の73,7%がロマンシュ語を使うが，それ以外の村では平均8%に留まった（Furer 2005:52).
[47] Cathomas (2012:125-50)

Grischun[48]へと至ることになる．ロマンチュ・グリシュン文法は1982年にチューリヒ大学のHeinrich Schmid教授により発表され，[49] 今日，多くの自治体に行政語・学校教育語として導入されたロマンシュ語の標準語である．すなわち，グラウビュンデン全州向けの情報のすべてがロマンチュ・グリシュンでしか発行されなくなり，メディアがロマンチュ・グリシュンを他の諸方言と同様に使っているのである．国家からすれば財政的な利点も推進した理由の1つであろうが，行政的に5つの方言を1つの標準語にまとめるといっても，短期的に節約できる金額は比較的小さい．標準化の目的は，何よりも全ロマンシュ語圏の交流とアイデンティティーの強化である．

しかし，標準語の導入について，各々独自の方言の保護を主張する反対運動が燃え上がるにつれて，ロマンシュ語圏全域に猛烈な論争が始まった．ロマンチュ・グリシュンに馴染めない多くの人から，国が言語保護の資金削減を図り1つだけのロマンシュ語を使うという行政指導を強いているとの批判の声が上がった．最も論争が燃え上がったのは，学校でどのロマンシュ語を選んで子供を教育するかという問題である．風当たりが強い中，グラウビュンデン州政府は2004年にロマンチュ・グリシュンを導入する策定を公表した．教育の言語を，各自治体が自由に選ぶことには変わりはないが，教材の出版は州によって決まることから，教材によってロマンチュ・グリシュンの導入を遂行しようとしたのである．これに応じて，各地方の反対運動が強まり「ロマンチュ・グリシュンを話すよりはドイツ語のほうがまし」というスローガンを掲げた．ロマンチュ・グリシュンは人為的で伝統のまだない言語だという論拠なのだが，反標準語運動は何よりもトップ・ダウン国家に反する運動ではないかと思える．

ロマンシュ語がすでに危機言語となったスルミラン方言圏とストシルヴァ方言圏ではロマンチュ・グリシュンを自由に選んだ自治体が多い．確かに，ロマンシュ語を生活のあらゆる場面において用いるのに，統一された標準語は望ましいだろう．しかし，ロマンシュ語を家族で「心の言語」として，そして「外国語のドイツ語」を仕事で使う人からすれば，統一の必要性はなかろう．逆に，母語（方言）と大いに違うロマンシュ語の標準語が導入された

[48] 日本語にすれば「グラウビュンデンのロマンシュ語」となる．以下（序で述べた通り）ロマンチュ・グリシュンと言う．

[49] Gross (2004:18)

ら，母語（方言）の生活空間が縮んでしまう．ドイツ語だけではなく，もう1つの言語を学ばなければならないというに等しいのである．ドイツ語が共通語の立場をすでに占めているわけで，ロマンチュ・グリシュンの必要性を否定する人々は泣き寝入りしようとしているかのように見える．ともかく，ロマンチュ・グリシュンの導入を進める人と，これに反対する人と，いずれもロマンシュ語の存亡を巡る危機感を抱えている．[50]

標準語はロマンシュ語の強化には不可欠であろうと思われる．しかし，州の政府がその導入を遂行し，ロマンチュ・グリシュンが各方言の地位を危うくしてしまったことは間違いであった．人為的な言語が自然に広がり，自然に自らの伝統をつくり，実践性を生み出すための時間が必要である．メディアにおける限られた存在からはじめて段階的に受動的な言語能力を促していったならば，これほど強い反対にはあわなかったはずである．ロマンシュ語の保護をあまりに慌てて進めようとした結果，推進派は人々に馴染むための時間を与えなかった．ただ，ロマンシュ語にはこのための時間が残っているかどうか，これが問題点である．

8．メディアのロマンシュ語

スイス連邦国やグラウビュンデン州の財政的な支援のもと，テレビ番組やラジオ放送を実施しているロマンシュ語放送局があり，また民間の報道活動も行われている．このような機関を通じて新しく生まれる文学作品・演劇イベント・音楽作品などがロマンシュ語圏で幅広く受容されている．ロマンシュ語が老朽化せず，新しい表現が生まれてくるためにも，ロマンシュ語メディアの存在が極めて重要である．ロマンシュ語圏の文化は今日，開花していることはこうしたメディアの力にもよると言える．

スイス国立放送局はドイツ語・イタリア語・フランス語のチャンネルと並んでロマンシュ語放送も経営している．国立放送局であるため，国の財政で経営しているのである．[51] スイス全国で聴取可能なテレビ放送が20万人，

[50] Furer (2005) は，このため，当方言の自発的な言語能力，そしてロマンチュ・グリシュンや他方言の受動的な言語能力だけを小学校で教えればよかろうと述べている．そうすれば，各方言の地位がロマンチュ・グリシュンに奪われる恐れがなく，ロマンシュ語圏全体の交流がより容易になる．

[51] Gross (2004:69)．ロマンシュ語放送の年間予算は2,050万スイスフランである．

すなわちロマンシュ人口を大幅に越える人数に視聴されると推定されている.[52]

スイス国営放送局の一部として，Radiotelevisiun Rumantscha（RTR社）が毎日ニュース番組を，そして週に一度ドキュメンタリー映画を放送している．また数週ごと討論番組も放送されている．同じ国営のRTR社による「Radio Rumantsch」をネット上で聴くことができる.[53]

視聴読者数の限られた範囲で難しい立場にあるとは言え，その他にもロマンシュ語の民間メディアがある．最も大幅に受容されるのは，新聞2紙と民間ラジオ1局である．「La Quotidiana」という日刊新聞が1997年以来，平日に発行されている.[54] La Quotidianaの大部分がスルシルヴァ方言を用いる一方，ドイツ語，ヴァラーデル方言およびピュテール方言で発行されるエンガシン地方新聞「Posta Ladina」がある.[55] 同じくドイツ語と並んでヴァラーデル方言・ピュテール方言を用いる「Radio Engiadina」は民間の放送局である.[56]

9．未来に向けて

ロマンシュ語話者の減少に歯止めが利くほどの保護策は未だにない．しかもその減少から元に戻るのはおよそ不可能である．とは言え，話者が意識的に自らの言葉を守っているため，近い将来の絶滅は免れるだろう．逆に2000年までの10年間でロマンシュ語の保護が強まったことがわかる．しかし，現存する「第4の国語」という憲法上の位置が確保されていても，ロマンシュ語圏内でさえ，この言語には他の諸国語ほどの自由性がないことが目につく．ただ，ドイツ語優位の現状においてであっても，多額の費用を投じずに，ロマンシュ語の自由性を政策によって高めることはできるだろう．例えば，ロマンシュ語系の人口がある程度以上に達する自治体では，ロマンシュ語を主要言語として用いる小学校のクラスができることが望ましい．あるいは，ロマンシュ語圏以外に住んでいるロマンシュ語系の子供に母語の授業を提供すれば，ロマンシュ語をよりよく次の世代に伝えることができよう．学校が言語能力を伝える機関として機能しなければ，みるみるうちに若者の言語がドイツ語に変わり，ロマンシュ語が老世代の言語となってしまうだろう．なお，近年に要求されるようになったもう1つの政策は，ロマンシュ語圏の政治的な協力や交流を強めることである．この目標に向けて，2003年に初めて「ロマンシュ語圏の議員会」が行われた.[57]

今まで守られてきた公的な地位がロマンシュ語になかったとすれば，今日に至ってロマンシュ語はさらに弱まっていたであろう．ロマンシュ語を国語とする憲法の徹底，つまり他のスイスの3つの国語と同じような公的地位を守ることが言語保護にとっては非常に大切なものだということは明らかである．

統計上でロマンシュ語話者の減少が記録されているとはいえ，ロマンシュ文化は近年にこそ開花している．インターネットなどのコミュニケーション手段のおかげで，音楽・文学・演劇などの新作品がより幅広く受容されるようになった．そして言語の存亡にとって最も大切なのは，やはり話者自身である．彼らはロマンシュ語を使うことに積極的であり，次の世代に自分たちの言語を伝える意志が強いため，ロマンシュ語の響きは近いうちに消えないだろう．

参考文献（第1章）

Bundi, Martin. 1982. *Zur Besiedlungs- und Wirtschaftsgeschichte Graubündens im Mittelalter.* Chur: Claven-Verlag.

Blättler, Jana. 2007. *Kleinsprachen und Sprachstandardisierung.* Champfèr: Eigenverlag.

Camathias, Flurin: „Nossa viarva", in: *Annalas retorumantschas* 1907（vol. 21）, S. 127-128.

Cathomas, Bernhard. 2012. "Sprachen fallen nicht vom Himmel. Zur Sprachplanung in der Rätoromania". In: Wanner Gerhard und Jäger Georg（Hg.）: *Geschichte und Gegenwart des Rätoromanischen in Graubünden und im Rheintal*. Chur: Desertina, S. 125-150.

[52] Gross（2004:64）

[53] RTRロマンシュ語放送局のホームページwww.rtr.chではテレビ番組やラジオ放送がオンライン視聴できる．

[54] Südostschweiz社のページでは，La Quotidianaがオンライン閲覧できる：http://www.suedostschweiz.ch/zeitung/la-quotidiana.

[55] http://www.engadinerpost.ch

[56] http://www.radioengiadina.ch

[57] Gross（2004:22;90）

Clavadetscher, Otto Paul. 1994. *Rätien im Mittelalter*. Disentis/Sigmaringen: Desertina.
Collenberg, Adolf und Gross, Manfred. 2003. *Istorgia Grischuna*. Cuira/Chur: Lia Rumantscha.
Darms, Georges: "Sprachnormierung und Standardsprache", in: Holtus, Günther; Metzelin, Michael; Schmitt, Christian (Hg.), *Lexikon der romanistischen Linguistik*, Vol. III, Tübingen, Max Niemeyer, 1989:827-853.
Dazzi, Anna-Alice. 2012. "Verschiedene Aktivitäten der Lia Rumantsch zur Erhaltung und Förderung des Romanischen". In: Wanner Gerhard und Jäger Georg (Hg.) : *Geschichte und Gegenwart des Rätoromanischen in Graubünden und im Rheintal*. Chur: Desertina, S. 117-124.
Decurtins, Alexi. 2001. *Niev vocabulari romontsch: Sursilvan-Tudestg*. Chur: Legat Anton condrau.
Deplazes, Gion. 1987. *Funtaunas. Istorgia da la litteratura rumantscha per scola e pievel. Tom 1: Dals origins a la refurma*. Cuira/Chur: Lia Rumantscha.
Dtv-Atlas Deutsche Sprache. 2007. München: Dtv.
Furer, Jean-Jacques. 1999. "Graubünden, von der Dreisprachigkeit zur deutschen Einsprachigkeit. Eine traurige Ausnahme in der Schweizer Praxis". In: Dieter Kattenbusch (Hg.): *Studis Romontschs. Beiträge des Rätoromanischen Kolloquiums (Giessen / Rauischholzhausen, 21.-24. März 1996)*. Wilhelmsfeld: Gottfried Egert.
Furer, Jean-Jacques 2005. *Volkszählung 2000. Die lage des Romanischen*. Bern: Bundesamt für Statistik.
Gross, Manfred. 2004. *Romanisch. Facts & Figures*. Chur: Lia Rumantscha.
Kraas, Frauke. 1992. *Die Rätoromanen Graubündens. Peripherisierung einer Minorität*. Stuttgart: Franz Steiner Verlag.
Liver, Ricarda. 2009. "Deutsche Einflüsse im Bündnerromansichen". In: M. Elmentaler (Hg.). *Deutsch und seine Nachbarn*. S. 133-148.
Maraschino, Nicoletta & Robustelli, Cecilia. 2011. "Minoranze linguistiche: la stuazione in Italia". In: Stickel Gerhard (Hg.) : *National, Regional and Minority Languages in Europe*. Frankfurt am Main: Peter Lang, S. 73-80.
Mayr, Ulrike. 2012. "Von der Spätantike zum Mittelalter. Romanen und Alamannen im Alpenrheintal – ein Konflikt der Kulturen?" In: Wanner Gerhard und Jäger Georg (Hg.) : *Geschichte und Gegenwart des Rätoromanischen in Graubünden und im Rheintal*. Chur: Desertina.
Valär, Rico Franc. 2012. "Wie dir Anerkennung des Rätoromanischen die Schweiz einte. Einige Hintergründe zur Volksabstimmung vom 20. Februar 1938.". In: Wanner Gerhard und Jäger Georg (Hg.) : *Geschichte und Gegenwart des Rätoromanischen in Graubünden und im Rheintal*. Chur: Desertina, S. 101-116.
Wanner, Gerhard. 2012. "Räter und Rätoromanen in der Geschichtsschreibung Vorarlbergs". In: Wanner Gerhard und Jäger Georg (Hg.) : *Geschichte und Gegenwart des Rätoromanischen in Graubünden und im Rheintal*. Chur: Desertina, S. 69-100.

エンガディン博物館（サンモリッツ）の入口

deutschen Sprache und ihre Erforschung (=Handbücher zur Sprach- und Kommunikationswissenschaft 2.2). Berlin / New York: Walter de Gruyter, 1873-1938.

Spescha, Arnold. 1989.*Grammatica Sursilvana*.Casa editura per mieds d'instrucziun. Chur.

Szadrowsky, Manfred. 1931. *Rätoromanisches im Bündnerdeutschen. Habilitationsvortrag über das Problem der Sprachmischung*.Chur: Sprecher, Eggerling & Co

Thöni, G.P. 1969. *Rumantsch-Surmeir, Grammatica per igl idiom surmiran*. Coira.

Tuor, Leo. 2012. *Giacumbert Nau.* Limmat Verlag.

Valär, Rico Franc. 2012. "Wie dir Anerkennung des Rätoromanischen die Schweiz einte. Einige Hintergründe zur Volksabstimmung vom 20. Februar 1938.". In: Wanner Gerhard und Jäger Georg (Hg.) : *Geschichte und Gegenwart des Rätoromanischen in Graubünden und im Rheintal*. Chur: Desertina, S. 101-16.

von Planta, R. 1939-.*Dicziunari Rumansch Grischun*.

Wanner, Gerhard. 2012. "Räter und Rätoromanen in der Geschichtsschreibung Vorarlbergs". In: Wanner Gerhard und Jäger Georg (Hg.) : *Geschichte und Gegenwart des Rätoromanischen in Graubünden und im Rheintal*.Chur: Desertina, S. 69-100.

Winzap, Isidor. 1990.*Cuors da romontsch sursilvan 2*. Ligia romontscha.

著者紹介

河崎　靖［かわさき・やすし］京都大学 教授

熊坂　亮［くまさか・りょう］北海学園大学 准教授

坂口 友弥［さかぐち・ともや］京都大学 研修員

Jonas Rüegg［ヨナス・ルエグ］チューリヒ大学 大学院生
（ロマンス語学・日本学）

目録進呈　落丁本・乱丁本はお取替えいたします。

平成25年12月30日　　©第1版発行

スイス「ロマンシュ語」入門

共著者　河崎　靖
坂口友弥
熊坂　亮
Jonas Rüegg

発行者　佐藤政人

発行所
株式会社　大学書林
東京都文京区小石川4丁目7番4号
振替口座 00120-8-43740番
電話 (03)3812-6281～3番
郵便番号 112-0002

ISBN978-4-475-01897-5　　横山印刷・牧製本